

2024年度エイズ電話相談事業報告書

■ 概要 1995年1月から開始し、毎週火曜日夜7～10時に、相談員2名体制で、電話相談を行っている。

■ 目的／経過 HIV感染に対する不安を持つ人、感染後のサポートを求める人に対する相談。

■ 結果／効果 2024年4月～2025年3月の電話相談集計結果

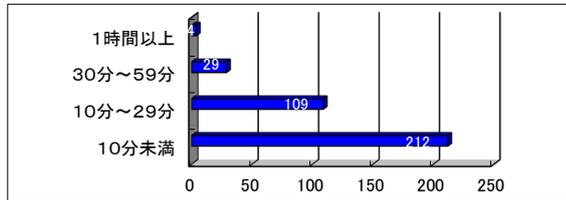
合計件数 354件

1、時刻

時刻	件数	割合
7:00～8:00	156	44.1%
8:00～9:00	99	28.0%
9:00～10:00	99	28.0%
合計	354	100.0%

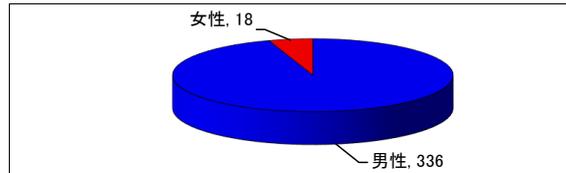
2、時間

時間	件数	割合
10分未満	212	59.9%
10分～29分	109	30.8%
30分～59分	29	8.2%
1時間以上	4	1.1%
合計	354	100.0%



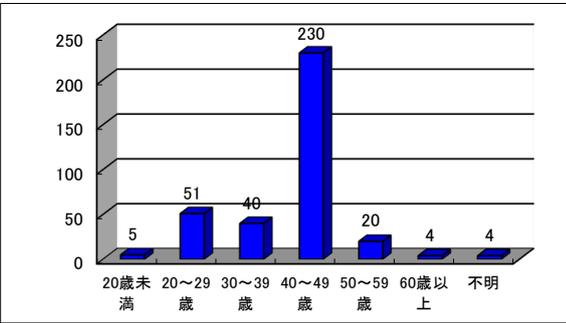
3、性別

性別	件数	割合
男性	336	94.9%
女性	18	5.1%
他	0	0.0%
不明	0	0.0%
合計	354	100.0%



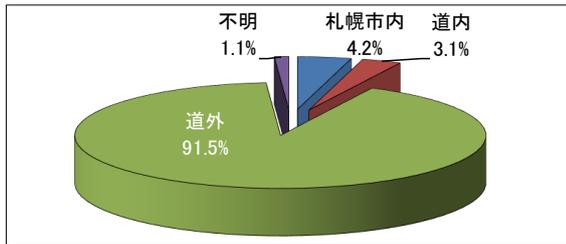
4、年齢

年代	件数	割合
20歳未満	5	1.4%
20～29歳	51	14.4%
30～39歳	40	11.3%
40～49歳	230	65.0%
50～59歳	20	5.6%
60歳以上	4	1.1%
不明	4	1.1%
合計	354	100.0%



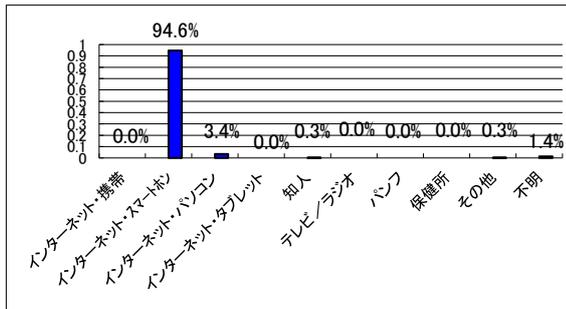
5、地域

地域	件数	割合
札幌市内	15	4.2%
道内	11	3.1%
道外	324	91.5%
不明	4	1.1%
合計	354	100.0%



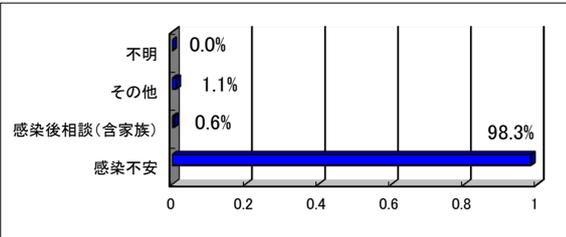
6、情報源

情報源	件数	割合
インターネット・携帯	0	0.0%
インターネット・スマートフォン	335	94.6%
インターネット・パソコン	12	3.4%
インターネット・タブレット	0	0.0%
知人	1	0.3%
テレビ／ラジオ	0	0.0%
パンフ	0	0.0%
保健所	0	0.0%
その他	1	0.3%
不明	5	1.4%
合計	354	100.0%



[相談内容]

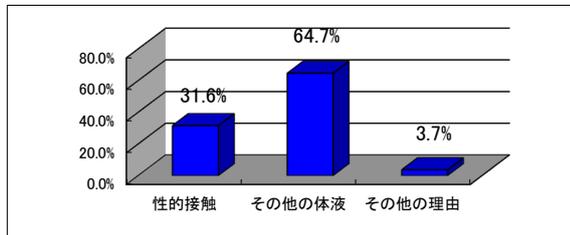
相談内容	件数	割合
感染不安	348	98.3%
感染後相談(含家族)	2	0.6%
その他	4	1.1%
不明	0	0.0%
合計	354	100.0%



1、感染不安の不安要因

※相談内容「感染不安」の内の不安要因

	件数	割合
性的接触	110	31.6%
その他の体液	225	64.7%
その他の理由	13	3.7%
合計	348	100.0%



2、検査についての相談

	件数
あり	88
なし	260
合計	348

3、他の性感染症についての相談

※不安要因が「性的接触」の内の相談

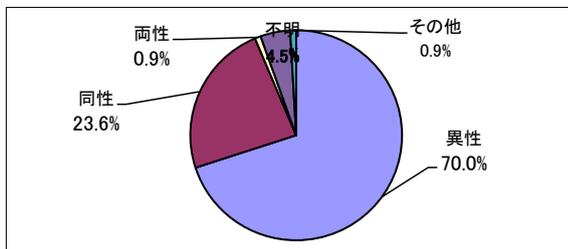
	件数
あり	15
なし	333
合計	348

4、エイズ不安症候群

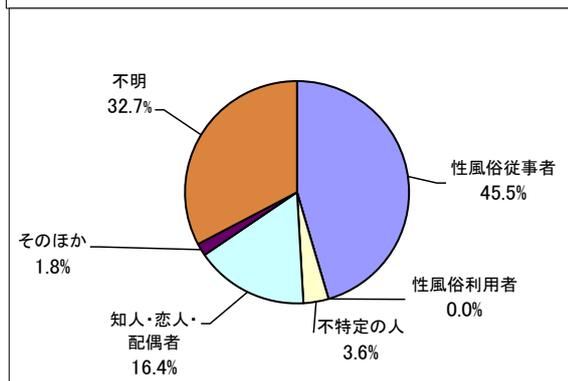
	件数
あり	207
なし	141
合計	348

5、性行為の相手

	件数	割合
異性	77	70.0%
同性	26	23.6%
両性	1	0.9%
不明	5	4.5%
その他	1	0.9%
合計	110	100.0%



	件数	割合
性風俗従事者	50	45.5%
性風俗利用者	0	0.0%
不特定の人	4	3.6%
知人・恋人・配偶者	18	16.4%
そのほか	2	1.8%
不明	36	32.7%
合計	110	100.0%



6、行為内容※コンドームに関して

	不使用	最初から使用	途中から使用	きけた・はずれた	つけたりつけなかったり	不明
膣性交	25	20	2	4	2	0
肛門性交	14	2	0	0	0	0
フェラチオ	28	6	0	0	0	0
クニニリングス	11	0				
素股	12					
キス	8					
その他	13					

※月別件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期計
31	25	27	30	25	25	163
10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期計
33	44	31	29	18	36	191
						年間計
						354

■分析

・件数は昨年度の222件（一日平均4.4件）から354件（一日平均6.9件）と年間受付件数は増加した。

（昨年度は年間50回、今年度は年間51回の相談受付日数）

しかし、うち200件ほどが日常生活におけるHIV感染に不安を抱える特定の方からの相談となった。

また、正確な件数までは出せないが、年間で10件程度女性相談員に対するセクハラ電話も一定数ある。

（男性相談員の場合は電話を切られるか、男性相談員に対して不適切な発言をすることがある）

・国内でのPrEPおよびPEP（nPEP：性行為による暴露後予防）を診断・処方するクリニックが広がるにつれ、PEP・PrEPに関する相談や予防方法として提案する機会も来ており、今後も継続してPrEP・PEPに対する知識の拡充と適切な対応を当電話相談では心がけていきたい。

・また術前のHIVスクリーニング検査で陽性となり、確認検査結果待ちの方からの相談があったが、スクリーニング検査結果を伝えられる際に適切な説明がされずに不安につながっている事例も見られた。普段HIVと関わりのない医師や検査担当者に対しても検査の正しい知識やHIVの知識習得が求められる。

・情報源としては、インターネットで、スマートフォンからの相談が94.6%とはじめて9割を超えた。2024年度はエイズ予防財団の助成金を受け、電話料金への活用と併せて電話相談の広報資材配布を当会主催のイベント等で配布を行ったほか、当会と関わりのあるLGBT関連団体やMSM ALL JAPANに加わる全国のコミュニティセンターを通じて各種イベントでも配布いただきました。

・相談員は2023年度から1名減となり2名体制で実施した。相談員の仕事の都合で日にち・時間によって2名体制の維持が難しいケースもあり、受話品質向上に努めるとともに、新たな相談員の確保・育成による受話体制の整備が急務となっている。